



人工衛星同士を結ぶ世界初の光通信 ネットワークサービス提供へ！ ～今春、つくば市で地上実証実験を実施予定～

茨城県では、宇宙ビジネスのモデルケース創出をサポートする「いばらき宇宙ビジネス事業化実証プロジェクト」を創設し、3案件を採択（※1）しました。

※1 このうち、ASTROCEAN株式会社による洋上での実証打上げについては、2/24に茨城県沖で実施しました。

この度、当該プロジェクトで採択した筑波大発ベンチャー『株式会社ワープスペース』（取締役CEO：常間地悟、本社：つくば市）が、世界初となる衛星間光通信ネットワーク【WarpHub InterSat】の構築に向けて地上実験を実施することとなりました。

近年、衛星から取得したデータを用いたサービス（※2）が続々と生まれていますが、通信上の課題（※3）が顕在化しており、衛星が撮影できる機会の約9割が機会損失になっているといわれています。そこで、【WarpHub InterSat】を通じた切れ目のない高速通信が様々な産業で求められています。

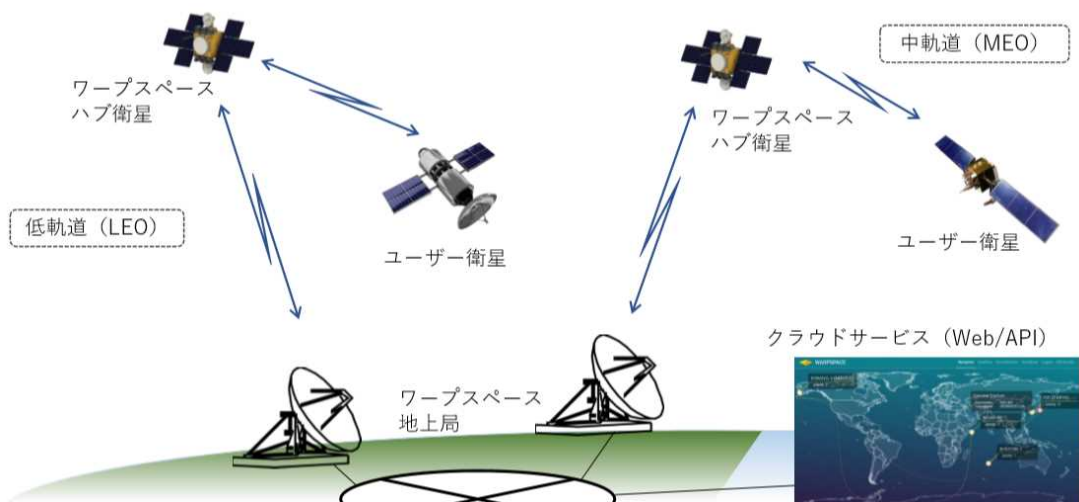
※2 農作物の高付加価値化、インフラの老朽化把握、原油の流通観測、自動車の出荷台数観測等

※3 ①通信範囲の狭小化、②地上通信設備の地理的限界、③宇宙通信周波数の確保困難を理由に、衛星が撮影できる機会の約9割が機会損失となっているといわれます。

ワープハブ インターサット

【WarpHub InterSat】のココが凄い！

- 価格は他社の約1/100、低軌道カバー率は3倍以上（同社調べ）、ユーザー衛星と中継衛星（同社製）間のデータ通信速度は最大1 Gbps、データ伝送量は1日10.8TBを計画し、常時接続と圧倒的なコストパフォーマンスを実現を目指しています！
- 2005年にJAXAとESA（欧州宇宙機関）が世界で初めて実施した双方向光衛星間通信実験に参画した研究者を技術顧問として招聘し、ネットワーク構築を目指します。
- 同社は、【WarpHub InterSat】のユーザーとなり得る世界の衛星事業者と交渉中で、すでにルワンダ、ジブチ（国営通信会社）とはMOUを締結しました！
- 2020年9月には、中継ハブ衛星（WARP-01）の宇宙実証を行います。



「お問い合わせ・取材申込み先」

- 県施策について：茨城県科学技術振興課 藤井，石崎，伴場（TEL：029-301-2515）
- WarpHub InterSatについて：株式会社ワープスペース info@warpspace.jp

情報提供先：県庁記者クラブ，筑波研究学園都市記者会

